

令和5年度学校関係者評価

【学校教育目標について】

- ・学校として一番重要である学校教育目標達成のための教育が高い評価をされたということは素晴らしい。素晴らしい教育環境の中で、生き生きと学校生活を送っていることが想像できた。
- ・先生の実践目標が低いということは、それだけ先生方が熱心に子どもたちのことを考えていただいているということだと感じる。先生方の頑張ろうという思いが伝わる。
- ・児童と保護者の評価のギャップを感じる。親子の思いの違いや温度差があるということだと思う。1-1、2-4、3-8、4-11、5-13などに顕著にあらわれている。
 - ・全体的に、保護者・児童とも3以上と評価が高い。それに対して、先生方の評価が低いのは、それだけ高い目標をもって子どもたちに対してくださっているからだと感じる。

【授業づくりについて】

- ・授業研究等授業実践を磨いてほしい。
- ・学級づくり、授業づくり(2-5、2-6)について、先生方の評価が低い。どのような課題があるのかをしっかりと分析し、今後どのように取り組んでいくのか具体的な対策を。
- ・2-5、2-6は、同じような内容なのに、2-6の方が低い。(児童)自分の意見を書いたり、自分の考えを話したりすることに抵抗があるのでは。

【読書活動について】

- ・ビブリオバトルなどにより、子どもたちの読書活動の推進を図ることは、コミュニケーション能力を高める観点からも、また、本校の目玉教育として続けていってほしい。
- ・本に関しては、家では本当に読まない。冬休みの親子読書で、家に本がないので、市の図書館に借りに行った。子どもに本を借りる習慣がないので、どうやって本を借りたらいいのかわからなくて困っていた。その本もなかなか自分で読もうとせず、母に読み聞かせてもらっていた。文章を読むよりも、YouTubeを見たり、スマホで音楽を聞いたりしている。また、調べ学習でも、図鑑や本で調べず、タブレットで調べている。
- ・本を読むために、先生方は努力していただいているが、子どもはなかなか読まない。親も読まないで、その影響はある。活字を読むきっかけになるのなら、漫画もありかなと思う。
- ・読書活動について、先生方は高い評価をしているが、保護者・児童は非常に低くなっている。読書週間で、100冊読んだ児童、20から30冊の児童、0冊の児童もいると聞いた。よく聞いてみると、100冊読んだ子は、どの休み時間も外に出ずに本を読み続けていて、20から30冊の子は、昼休みは読書し、業間は、外で遊んでいる。バランスのよい取り組みができたと思う。低学年のうちに読書に親しむ時間を設定することも大切。(読書タイムなど)面白さにふれる・気づくようにしていきたい。ビブリオバトルは低学年には難しい。個人差に配慮した取り組みを。
- ・読書よりも、耳で聞いたり、見たりすることが多くなっている。自分自身も、野菜作りをする際には、YouTubeを見て調べている。子どもの気持ちもわかる気がする。

【外部講師について】

- ・国際理解の学習が充実している。

【生活指導面について】

- ・不登校0ということを知り、よいことだと思った。それだけ学校の先生方のフォローがあるということだと思ふ。
- ・不登校0ということを知りうれしく思ふ。でも、中学に行くと不登校の数がぐっと増えている。
- ・「児童は自尊感情が高まってきている」の親の評価が、去年は低かったが、本年度は高くなってきた。
- ・「学校が楽しい」の項目については、保護者よりも児童の方が低い結果となっている。保護者と児童の感じ方に差があるということである。子どもたちの中には、「学校が楽しくない」と思っている児童が少なからずいるということ。そのことに、保護者が気づいていないということは、子どもたちのサインを見逃すことにつながるかもしれないということだ。しっかり見ていく必要がある。
- ・情報共有をよくされている。それは、担任だけでは、見えない点についてみんなで見ていくということになり、大変重要なこと。
- ・挨拶については、する子としない子の2極化が顕著になってきたと感じる。
- ・挨拶は、児童は、3.74もある。実態とずれているが、挨拶の大切さについて、子どもたちは理解している。

【その他】

○自律について

- ・家で片付けができない。声をかけるが、「時間がない。」という返事が返ってくるばかり。学校ではできているようなのだが・・・
- ・自律の評価が低い。どのような課題があるのかきちんと分析して、取り組んでいく必要がある。

○帰ってからの外遊びについて

- ・3-9の外遊びの項目は、物理的に三草校区の子どもたちはむりなのではないか。この項目は、必要？
- ・自分の子どもの小さいころから、外では遊ばなくなっている。なぜ遊ばないかと聞くと、外に出ても誰もいないと言っている。家でゲームなどをして過ごしている。

○業務改善について

- ・道徳・閉校事業など、いろいろなことがあると聞く。教職員にかかる負担が多くなる。先生方に無理のない学校運営を。無理をして、先生方が不登校にならないようにしてほしい。

○家庭・地域・保・小・中との連携

- ・家庭訪問のあった方がいい。家庭訪問の本来の意味は、家庭の様子を先生方が見て、子どもたちを理解することだと思う。
- ・中学校との連携を大切にして取り組んでいる。こども園ともしっかりと連携していくことが大切。こども園の生活発表会は、大変レベルが高い。年長の子どもの様子を知るよい機会だと考える。子どもたちの自主性・創造性をつぶさずにと小学校へと引き継いでいくことが大切である。
- ・学校便りなどを通して、子どもたちの様子がよく伝わってくる。
- ・学校に対して、地域も、保護者も好意的で信頼を寄せている。
- ・地域が、小学校に寄り添えるようにしていきたい。